

令和3年3月5日

第2回 学校運営協議会 議事録

学校運営協議会委員出席者

| | | |
|-------|-------------|----------|
| 中嶋 正人 | 大阪産業大学 | 入試センター次長 |
| 長廻 暢一 | 大阪国際大学 | 入試・広報部参与 |
| 笛田 直樹 | 大東市立四条中学校 | 校長 |
| 尾崎 明幸 | だいとう森づくりクラブ | 代表 |
| 梅本 正直 | 北条憩いの家 | 所長 |
| 土岐 浩二 | 本校PTA | 会長 |

○体験入学会「チャレンジ野崎」の実施について

- ・北河内の中学校の参加が多く、参加した人はとても良いイメージとなっている。また、説明会においても学校の紹介が分かりやすいとアンケートの結果が出ている。ただ、受験しようと思ったのは参加者の約半分というのはちょっと残念である。
- ・参加した中学生の感想より、先生や生徒が優しく楽しかった、おもしろかった、等の声が非常に多い。教育活動に対するとても良い印象を与えた素晴らしい取り組みだと思う。
- ・申し込み方法や他校との日程を避けるなどいろいろと工夫され、参加者数が改善したことはすばらしい。来年度以降も続けてほしい。

○進路について

- ・普通科で就職が多いということについて、授業を含めた進路指導の工夫の必要がある。

○生徒指導について

- ・規範意識について生徒との「意見交換の場」が必要。
- ・一人の教員だけでなく、多くの教員がかかわり指導している体制はとても良い。
- ・挨拶運動、清掃活動、生徒の作品展示、コミュニケーションワーク、チームワーク学習などとても良い取り組みをしている。
- ・学校のルールなど生徒会と共に考え、クラブ活動の活性化を求める。
- ・登校遅刻者数を減少するという事は、どこの学校でも大きな課題である。辛抱強く続けていってほしい。
- ・自主的な生徒会活動は、様々なことについて生徒自身の自覚を促す良い取り組みだと思う。更なる取り組みを願う。

第3回 学校運営協議会 議事録

学校運営協議会委員出席者

| | | |
|-------|-------------|----------|
| 中嶋 正人 | 大阪産業大学 | 入試センター次長 |
| 長廻 暢一 | 大阪国際大学 | 入試・広報部参与 |
| 笛田 直樹 | 大東市立四条中学校 | 校長 |
| 尾崎 明幸 | だいとう森づくりクラブ | 代表 |
| 梅本 正直 | 北条憩いの家 | 所長 |
| 土岐 浩二 | 本校PTA | 会長 |

○「令和2年度 学校経営計画及び学校評価」などに関する意見等

- ・ 取組内容等は、基本的にはこの内容で良いと思う。もしできれば、今年度、学校運営のなかでコロナ感染防止対策をいろいろと取り組まれてきたその変更された授業方法や学校行事、部活動等に対する取り組みについて「具体的な取組計画・内容」「評価指標」のなかに具体的に表記したり、また、「学校教育自己診断」の診断項目や「授業アンケート」の質問のなかに取り入れることができればよいのではないかと思う。
- ・ 今年度は、新型コロナの影響で学校運営のなかで大きな変更を余儀なくされた部分も非常に多くあったと思う。来年度もこの状況は続くと考えられる。その中で今までできていたことができない状況での学校教育に対する生徒や保護者の不安感を少しでも少なくすることが重要な課題の一つであると考えます。校長先生のリーダーシップのもと教職員一致団結して取り組んでいただき、更なる学校経営の充実を願います。

○「令和3年度 学校経営計画及び学校評価」について

1 生徒の自己実現を最大限に支援する学校づくり

(1) 生徒の「学ぼうとする力」を育成する

ウ・・・教育センター以外の地元の中学校での研修・研究授業に参加されているのは、地元の中学校をよく理解するうえでも素晴らしい取り組みである。

(2) 生徒一人ひとりの進路目標を実現する

イ・・・職場見学やインターンシップなどを充実し、生徒の将来の職業意識を高めることがどの学部・学科に進学するのか、どのような企業に就職するのかなど、生徒の進路意識の向上につながると考えるので、更なる充実を期待する。

2 すべての生徒の生徒が安全・安心に生活できる学校づくり

- ・ 学校教育自己診断「相談できる教員は担任以外にもいる」の質問で、担任以外（教科外担任、部顧問、養護教諭、司書教諭、教育相談員、その他）の対応を求める。

- ・「令和2年度学校教育自己診断」の、「4 野崎高校へ入学して良かった」について、1年生の肯定的回答が少ないと読み取りました。3年間過ごしてもらって、卒業する時には、「野崎高校で良かった！」と思ってもらいたいです。

○「令和2年度学校自己診断集計」の結果について

- ・1年生が2・3年生より1+2の値が低いのは、今年度コロナ禍で教育活動がいろいろと変更された影響ではないかと考える。
- ・説明番号6「頭髪・服装指導は適切である」の数値が他の項目より低いのはどこに課題があるのか。
- ・説明番号22、23の数値が高いのは、コロナ禍のなか先生方がわかりやすい授業のためいろいろと工夫された結果だと考える。

○「第2回授業アンケートの結果について」

- ・アンケートの数値が毎年徐々に高くなっているのは素晴らしい。

○本校の取組について

① 生徒指導について

- 生徒指導部の様々な取り組みには非常に充実した内容を感じる。今後も家庭環境や人間関係などから見える課題を見つけ、このコロナ禍のなか、非常に厳しい状況ではあるが、日々の生徒指導をはじめ、学校行事や部活動、生徒会活動などを更なる充実を図り、生徒一人一人に寄り添う指導をお願いしたい。
- ・喫煙指導についてですが、一旦、習慣付いてしまうとなかなかむずかしい指導になってしまいます。コロナ休業中にヒマを持って余して悪い習慣が入り込んでしまったのか。粘り強く指導を求める。触法行為ですので、見過ごしている保護者責任へのアプローチも考えてみては。
 - ・遅刻が多いのが心配である。コロナの影響により学校生活が楽しめないことが原因ではないか。

② 高校生活について

- ・学校生活が「1日の中で一番安らぐ時間」と思っている生徒にとってコロナ禍の影響は非常に大きく、メンタル等のサポートは大切だと考える。
- ・1年間のカリキュラムを終えることや、生徒たちの支援・サポートで教員の負担は増えるのではないか。

③ 人権教育について

- ・SHINGO 西成様やちゃんへん様、仲岡しゅん様を講師に迎え、講義や講演を行ったことについては高く評価できる。講師の方々の生き方や前向きな姿勢は本校の生徒にとってプラスになった。